



のう じ でん そう 農 時 電 送

秋まき小麦 起生期の追肥について

早くから融雪の進んだほ場では、起生期を迎えつつあります。本年の小麦は越冬前の生育が平年より小さく、起生期の肥料を欲している状態です。各ほ場の状態を確認し、速やかな起生期追肥を行いましょう。

凍上により小麦の根が浮いているほ場では、追肥後のローラーでの鎮圧により根の定着を促しましょう。

茎数の数え方がわからない場合は関係機関にご相談下さい。

☆きたほなみの窒素施肥体系

起生期の茎数 (m ² あたり本数)	800本以下	800～1,300本	1,300本以上
施肥 窒素 量	起生期 8 kg/10a 硫安 約40kg	6～8 kg/10a 硫安 約30kg	4～6 kg/10a 硫安 約20kg
	幼形期 4 kg/10a	4 kg/10a	4 kg/10a
	止葉期 4 kg/10a	4 kg/10a	4 kg/10a

☆起生期追肥のポイント

- ① 停滞水のあるほ場は、速やかに排水対策を行うこと
- ② ほ場の茎数を確認し、茎数に応じた追肥を行うこと
- ③ 小麦の根が浮いている場合は、ローラーでの鎮圧も行うこと

☆間作アカクローバでダイズシストセンチュウ対策

秋まき小麦にアカクローバを間作することにより、ダイズシストセンチュウが約7割減少します。

は種は起生期の追肥と同時に行います。秋まき小麦収穫後は、必ず麦稈を搬出し、アカクローバの生育量を確保しましょう。

10aあたりは種量	3 kg
10aあたり施肥量	リン酸 4 kgを起生期追肥に加える (熔燐20kg/10a程度)

※クリムソクローバの秋まき小麦間作はできません！！

○●安全第一で農作業を行いましょー！！●○